

1. はじめに

新幹線の高架下の空間に注目し、高架下から広がっていく空間の構成を提案する。

2. 提案敷地

図1で示すように、ものづくり大学の南西側には、上越新幹線の高架、「高崎高架」が南西から北東へと続いている。本提案では、高崎高架下及び、ものづくり大学、その他高崎高架近隣の敷地を利用する。

提案敷地の高架下は整備されておらず、不法投棄が多く、雑草が生い茂っている。並んで走る道路には歩道がなく、歩行者の通行は危険である。また、街灯が無く、夜間は非常に暗い。

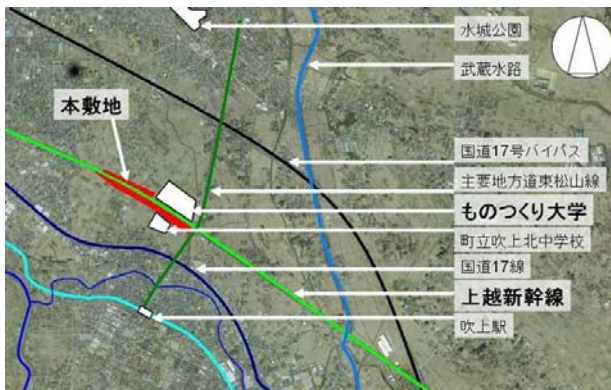


図1 敷地周辺図

3. 計画案

・通路

高架下を基本的に動線とし、通路にする。

この通路を主軸とし、空間を発展させてゆく。ものづくり大学の南門と連結させ、安全かつ、回り道をする必要がなくなった。

また、高架下のグランドレベルは自転車専用道路となっており、自転車が安全に通行できるようになっている。

・ユニット1

高架下を通路にする上で図2のような基本ユニットを設けた。この基本ユニットを繋ぎ合せていくことで高架のカーブなどに対応することができる。

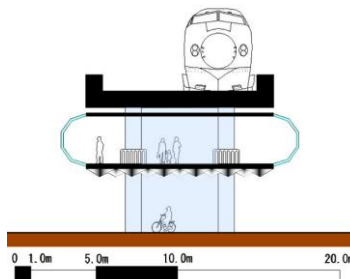


図2 基本ユニット 断面

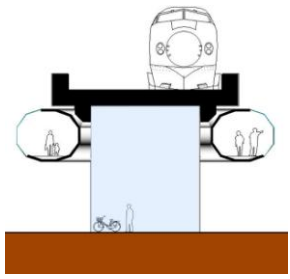


図3 交差点ユニット

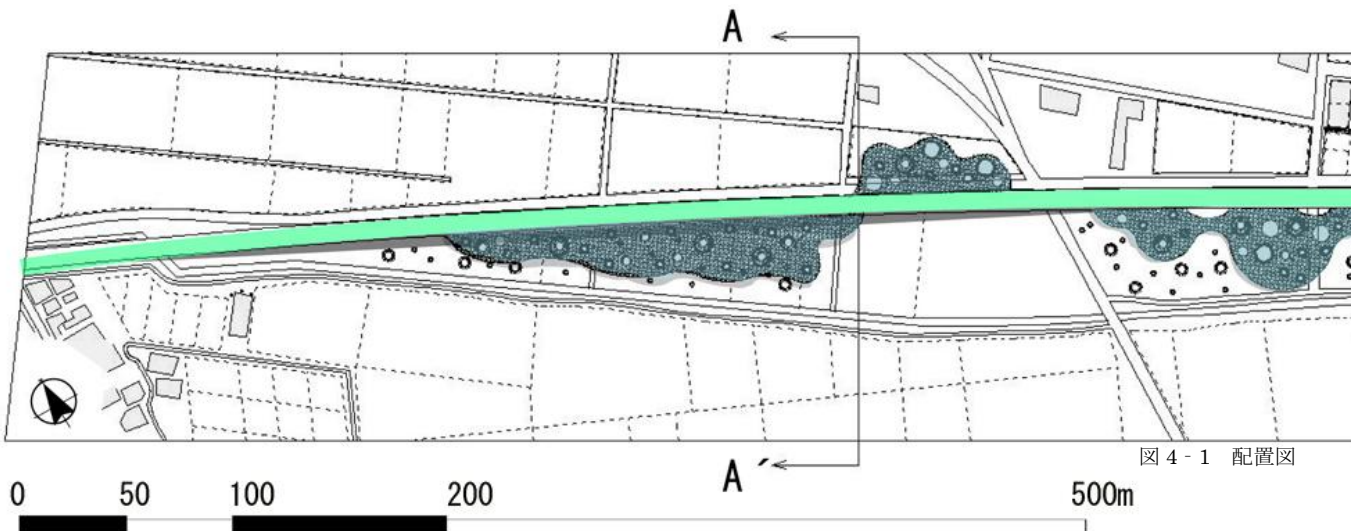


図4-1 配置図

・ユニット2

高架が道路などと交差するために高架の形状が変わる場合がある。ユニットが変化に対応するため図3のような交差部ユニットを設けた。

ユニット1とユニット2を状況に合わせて組み合わせ通路とする。

・ペDESTリアンデッキ

図5に示すように高架下の閉鎖的な通路から広々としたペDESTリアンデッキを設ける。

ペDESTリアンデッキでは自由に行動でき、広いスペースを散策することができる。また、床がそのまま柱になっており、ペDESTリアンデッキ下のピロティを覗けるようになっている。

・ピロティ

ペDESTリアンデッキ下のスペースは広大なピロティが広がっている。ペDESTリアンデッキがトラス構造のためトラスの間から空を見ることができ、圧迫感を感じさせない。

晴れた日などは時間と共に変わるトラス構造の美しい影を見ることができる。

図6に示したようにペDESTリアンデッキの巨大な柱が池の中に建っておりとても迫力がある景観を創りだしている。

4. まとめ

本提案は、3年間通い続けた通学路の高架下が非常に荒れていることを知り、人が集まる場所になれば自然と高架下の現状は改善されると考え、美しく生まれ変わる高架下を望み提案した。

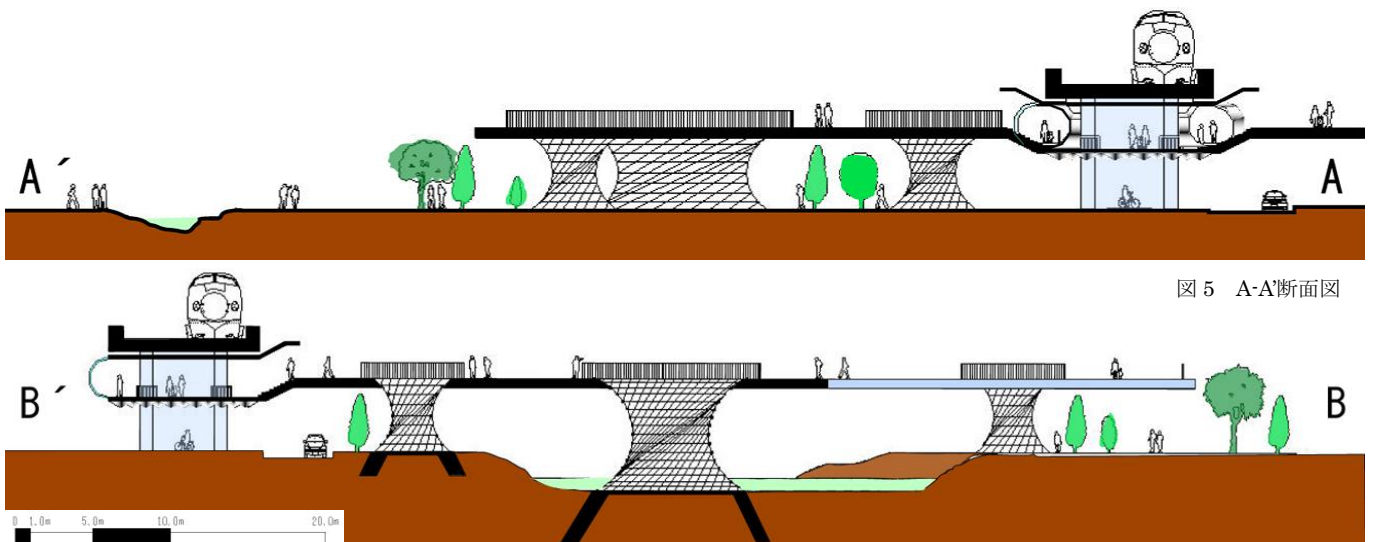


図5 A-A'断面図

図6 B-B'断面図

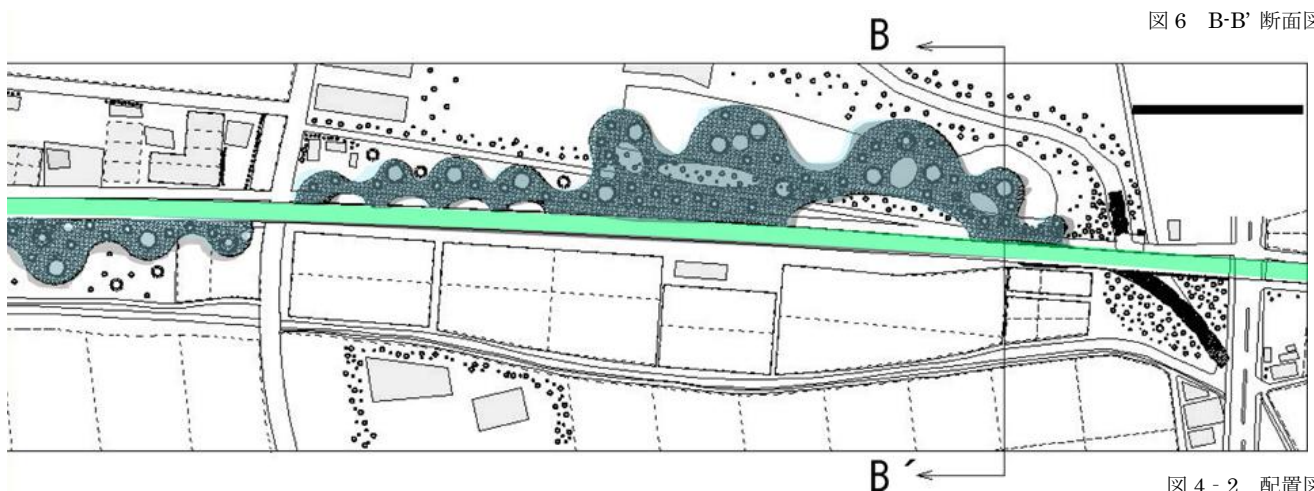


図4-2 配置図